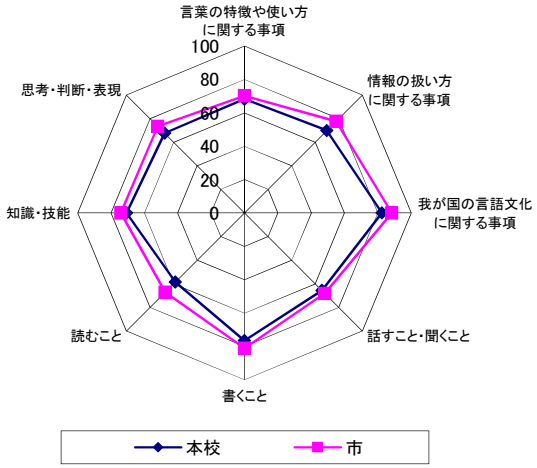
宇都宮市立上河内中学校 第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.3	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	69.9	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	82.4	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	65.7	68.2	67.4
	書くこと	76.5	81.1	71.7
	読むこと	58.6	67.2	61.3
観点別	知識・技能	70.7	74.2	67.9
	思考・判断・表現	67.7	73.5	67.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

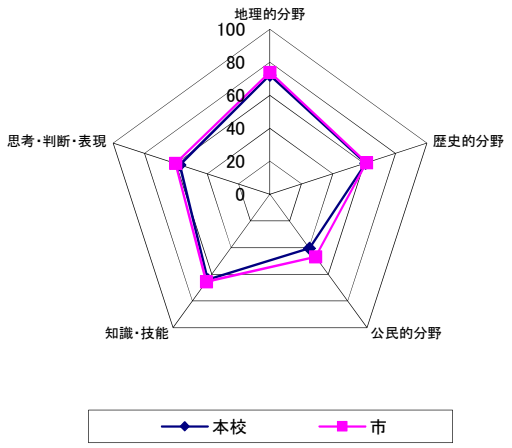
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○「小学校で学習した漢字を正しく書く」の設問の正答率は64.7%であり，市平均を12.5ポイント上回っている。漢字の書き取りをすることに良好な状況が見られる。 ●「助動詞について理解する」の設問の正答率は17.6%であり，市平均を12.7ポイント下回っている。文法の理解について課題が見られる。	・定期的な漢字テストの実施により，漢字力の定着を図る。 ・文法についての定期的な復習や，小テストを実施することで，文法への理解を定着させる。 ・国語ワークや漢字ドリル，タブレットなどを活用し，家庭での学習をとおして理解を深めることを促す。
情報の扱い方に関する事項	●「情報と情報との関係について理解し，論理の展開の仕方を捉える」の設問の正答率は66.2%であり，市平均を3.2ポイント下回っている。文章を論理的に捉えることに課題が見られる。	・説明文の段落構成について，授業や家庭学習（ICTやeライブラリについても）をとおして理解を深め，定着させる。 ・ICT機器やクロームブックを効果的に活用していくことで，情報処理能力の向上を図る。 ・自身の考えを文章化するために，毎日のダイアリー提出や，新聞記事などから自身の考えを書く活動を通して文章力の向上を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○「歴史的仮名遣いについて理解する」の設問の正答率は79.4%であり，全国平均を6.4ポイント上回っている。古典に関する知識・技能についての理解に良好な状況が見られる。 ●「現代語訳を手掛かりに古典を読む」の設問の正答率は85.3%であり，市平均を4.1ポイント下回っている。現代語と古語を結び付けることに課題が見られる。	・古文を図書館やICT機器で調べ，古典学習へ親しみをもてるように促す。 ・古文を定期的に読むことで，古語と現代語が関連しあっていることを理解させ，読解力を定着させる。
話すこと・聞くこと	●「話の展開を予測しながら聞く」設問の正答率は86.8%であり,市平均を5.8ポイント下回っている。話がどのように展開してくか予測することに課題が見られる。 ●「自分の考えを分かりやすいように表現を工夫する」の設問の正答率は47.1%であり，市平均を1.5ポイント下回っている。適切な表現を考え，工夫することに課題が見られる。	・聞き取りテストを行うことで，話を聞く力の向上を図る。 ・自身の考えを発表する場を増やし，自身の考えを他者に伝える機会を確保する。
書くこと	○「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する」の設問の正答率は73.5%であり，市平均を1.0ポイント上回っている。文章を工夫することに良好な状況が見られる。 ●「情報と情報との関係について理解し，自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する」の設問の正答率は73.5%であり，市平均を12.4ポイント下回っている。自身の考えを文章化することに課題が見られる。	・短文を作る授業などを設けることで，語句の意味を理解させ，文章作成力を養う。 ・文章を書く単元において自身の作品のみではなく，他者の作品に目を通すことで，工夫の仕方などを意識させ定着させる。
読むこと	○「情報と情報との関係について理解し，論理の展開の仕方を捉えている」の設問の正答率は66.2%であり，全国平均を5.2ポイント上回っている。文章表現に対する理解に良好な状況が見られる。 ●「文章の論理の展開について評価する」の設問の正答率は54.4%であり，市平均を15.5ポイント下回っている。論理の展開を理解することに課題が見られる。	・読み物教材を読む際，グループワークなどを用いて登場人物と心情を整理することで，読解力を養う。 ・文章表現を理解するために様々な文章を紹介し，読むことで，特徴を理解させる。

宇都宮市立上河内中学校 第３学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	72.2	74.0	67.9
	歴史的分野	61.0	61.5	56.1
	公民的分野	40.6	46.9	40.7
観点別	知識・技能	64.0	65.5	60.6
	思考・判断・表現	57.5	60.2	52.7

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

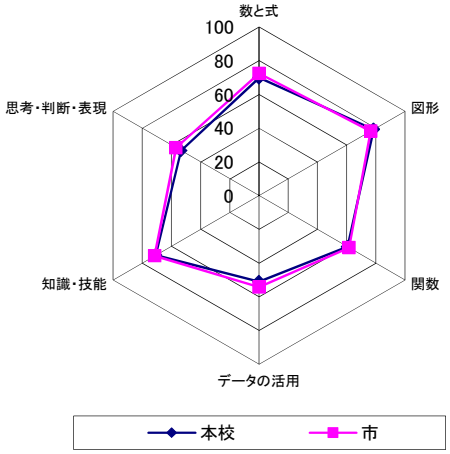
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「大陸と海洋の分布」の設問の正答率は73.5%で市の平均を3.0ポイント上回っている。 ○「世界の様々な気候の特徴について資料をもとに考える」の設問の正答率は86.8%で市の平均を3.5ポイント上回っている。 ●「日本の気候」の設問の正答率は69.1%で市の平均を9.1ポイント下回っている。 ●「近畿地方の文化の歴史的背景や開発の歴史について，複数の資料から考察する」の設問の正答率は77.9%で市の平均を7.8ポイント下回っている。	・授業において，写真や映像など視覚的に捉えることができるように一人一台端末の活用を促す。 ・グラフ，統計，地図など複数の資料から情報を読み取ったり，他の地域との相違点を考えたりする場面で，個人作業に加え，グループ学習の時間を確保する。 ・地理的分野に関する専門用語を確実に習得させるために，一人一台端末によるドリル学習を活用し，定着を図る。
歴史的分野	○「弥生時代の人々の暮らし」の設問の正答率は83.8%で市の平均を5.9ポイント上回っている。 ○「大阪の繁栄」の設問の正答率は57.4%で市の平均を8.4ポイント上回っている。 ●「世界の古代文明」の設問の正答率は51.5%で市の平均を6.3ポイント下回っている。 ●「江戸時代の農業」の設問の正答率は57.4%で市の平均を10.8ポイント下回っている。	・個々の史実，個々の人物としてだけの捉え方で留まらず，時間の流れの中で捉えることのできるように，年表やテーマ別の変化を確認することで理解を深め，定着を図る。 ・個々の史実について，「なぜ」「別の方法は」「自分が当事者だったら」と多面的・多角的に考えたり，発表し合ったりする場面を授業中や振り返り等で確保する。 ・歴史的分野に関する専門用語を確実に習得させるために，一人一台端末によるドリル学習を活用し，定着を図る。
公民的分野	○「日本国憲法の三つの基本原理」の設問の正答率は70.6%で市の平均と同程度である。 ●「新しい人権が認められるようになった背景」を記述する設問の正答率は26.5%で市の平均を16.3ポイント下回っている。	・授業の導入場面などで，テレビや新聞，インターネット上で取り上げられている時事問題を数多く取り上げ，公民的分野の学習に対する興味・関心を高めていく機会を確保する。 ・新しい人権など，さまざまな資料を基に思考・判断・表現することに課題を残したことから，授業の振り返りの時間を活用して，自分の考えをしっかりと書かせる。 ・公民的分野に関する専門用語を確実に習得させるために，一人一台端末によるドリル学習を活用し，定着を図る。

宇都宮市立上河内中学校 第３学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.9	72.5	71.3
	図形	78.4	76.5	68.1
	関数	60.7	61.7	50.3
	データの活用	51.1	54.2	43.5
観点別	知識・技能	70.8	71.5	66.7
	思考・判断・表現	53.4	56.9	45.8

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

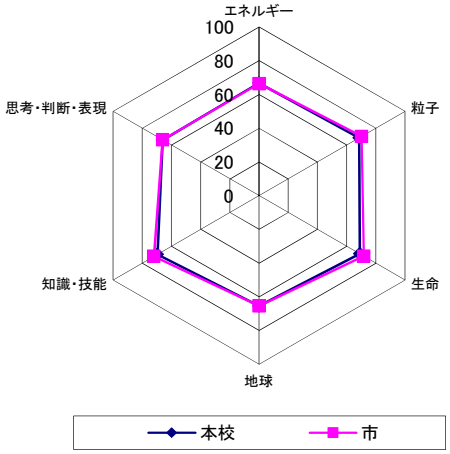
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「(x+a)(x+b)の公式を使った展開」の設問の正答率は91.2%であり，市平均を7.2ポイント上回っている。 ○「根号をふくむ式の加法」の設問の正答率は66.2%であり，市平均を3.6ポイント上回っている。 ●「連立方程式の立式」の設問の正答率は67.6%であり，市平均を8.2ポイント下回っている。	・eライブラリーや1年生からの基礎・基本的な小テストを，今後も継続して繰り返し取り組ませることで，基礎・基本の定着を図る。 ・T・Tの指導体制，習熟度別学習を活用し，生徒の苦手意識の改善を図る。
図形	○「三角形の対称移動」の設問の正答率は91.2%であり，市平均を4.9ポイント上回っている。 ○「三角形の合同条件」の設問の正答率は85.3%であり，市平均を7.4ポイント上回っている。 ●「三角形の高さを表す線分の作図」の設問の正答率は58.8%であり，市平均を6.3ポイント下回っている。	・１年生で学習する平面図形や空間図形の単元の復習を，継続して繰り返し取り組ませることで，学習内容の定着を図る。 ・２年生で学習する三角形の合同証明や相似な図形の単元の復習を継続して繰り返し取り組ませることで，学習内容の定着を図る。
関数	○「反比例の式からXとyの関係を表した表を選ぶ」の設問の正答率は83.8%であり，市平均を10.5ポイント上回っている。 ●「x，yの値から，関数の式を立式をする」の設問の正答率は63.2%であり，市平均を6.1ポイント下回っている。	・生徒の中で苦手意識の高い「関数」の分野において，１，２年生の内容の復習を徹底して行っていく。 ・比例・反比例，一次関数，2乗に比例する関数において，一般式の表し方の指導を重点的に行うとともに，表・式・グラフの関連を生徒に理解させる。 ・ペアや任意小集団など，学習形態を工夫しながら問題にも取り組ませることで，発展的な問題へ対応できるようにする。
データの活用	○「四分位範囲を求める」設問の正答率は52.9%であり，市平均を1.6ポイント上回っている。 ●「ヒストグラムを読み取り，累積相対度数を求める」設問の正答率は30.9%であり，市平均を14.3ポイント下回っている。	・資料の分析と活用についてヒストグラムや度数分布表を踏まえながら，用語の確認など復習を行っていく。 ・資料を活用して問題解決していくような課題学習に取り組ませることで，正しい知識を用いて正しい判断ができるよう指導していく。

宇都宮市立上河内中学校 第３学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	66.8	66.5	61.2
	粒子	68.7	70.2	62.3
	生命	69.0	71.8	65.7
	地球	65.4	65.4	61.0
観点別	知識・技能	69.6	72.0	67.3
	思考・判断・表現	66.0	66.0	58.3

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

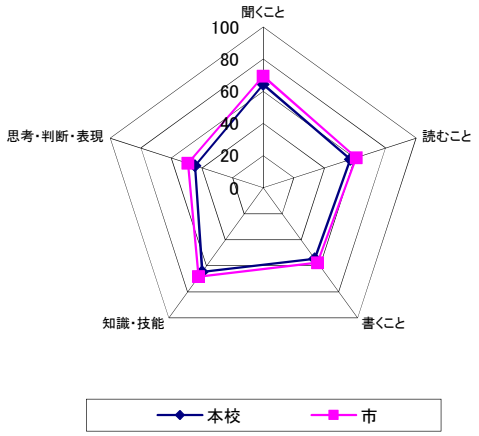
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「2つの音さの間に板をおいた時の実験結果の推測」の設問の正答率は91.0%であり，市平均を6.6ポイント上回っている。知識をもとに実験の結果を推測することに良好な状態が見られる。 ●「電力量を求める式」の設問の正答率は52.2%であり，市平均を5.3%下回っている。計算問題の公式の理解に課題が見られる。	・実験の予想の時間を十分に取ることを継続し，知識をもとに推測する力の向上を図る。 ・公式，グラフ，実験結果の関連を示し，視覚的な面からも理解させることで，定着を促す。
粒子	○「メスシリンダーの目盛りの読み方」の設問の正答率は65.7%であり，市平均を9.2ポイント上回っている。実験器具の使い方の理解に良好な状況が見られる。 ●「中和を行ったときの，水酸化物イオンの数の変化」の設問の正答率は41.8%であり，市平均を8.1ポイント下回っている。目に見えないイオンをモデル化して考えることに課題が見られる。	・授業の計画を十分に行い，生徒が自分自身の手で実験器具を操作する時間を確保する。 ・ICTやホワイトボードを活用し，目に見えないものをモデル化して考える力の向上を図る。
生命	○「被子植物の花が目立つ色や形をしている理由」の設問の正答率は71.6%であり，市平均を2.8ポイント上回っている。受粉についての知識を活用し，理由を説明することに良好な状態が見られる。 ●「遺伝子についての理解」の設問の正答率は38.8%であり，市平均を12.7ポイント下回っている。遺伝子というものがどのようなものなのかの本質的な理解に課題が見られる。	・何故そのような結果になるのか考える時間を確保し，実験結果から考察する力の向上を図る。 ・理科の専門用語を理解するだけではなく，練習問題を通して，既習単語を使って説明することに取り組ませる。
地球	○「寒冷前線付近にできる雲」の設問の正答率は88.1%であり，市平均を4.0ポイント上回っている。前線のでき方から雲のようすを考えることに良好な状態が見られる。 ●「寒冷前線の記号」の設問の正答率は56.7%であり，市平均を8.7ポイント下回っている。言葉の意味の理解と記号を結び付けることに課題が見られる。	・単元と単元のつながりを意識した授業を今後も実施し，知識と知識を結びつけて考える問題に取り組ませる。 ・理科特有の記号について，実験結果との関連を示し，家庭学習を通して理解を深め，定着させる。

宇都宮市立上河内中学校 第３学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	64.3	69.4	63.8
	読むこと	57.0	60.8	55.6
	書くこと	54.6	57.5	47.8
観点別	知識・技能	64.6	68.3	64.1
	思考・判断・表現	44.6	49.2	37.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「英文を聞き，その内容に合う絵を選んでいる」の設問の正答率は100%であり，市平均を4.8ポイント上回っている。物に関する説明を聞き、それが何を表すかを理解することに良好な状況がみられる。 ●「対話の内容を聞き，その意味を理解して資料をもとに考える」の設問の正答率は13.2%であり，市の平均を14.2ポイント下回っている。 ●「英文を聞き，場面を捉え，示された絵を並べる」設問の正答率は80.9%であり，市平均を4.0ポイント下回っている。	・決められたテーマでのスモールトークを増やし，表現力を高める。 ・教師のエピソードトークをメモを取りながら聞く指導を繰り返す。 ・ナチュラルスピードの文が聞き取れるように，聞き取りの回数を増やす。
読むこと	○「ふさわしい接続詞を選ぶ」設問の正答率は79.4%であり，市の平均を4.3ポイント上回っている。文脈を読み取って適切な語を選ぶことに良好な状況がみられる。 ●「ポスターの情報を読み取りながら，対話の流れに合った語を選ぶ」設問の正答率は45.6%であり，市の平均を8.4ポイント下回っている。様々な英文を読み取ることに課題が見られる。	・語彙力をつけるとともに，必要な情報を探しながら読む指導を心がける。 ・長文を苦手とする。
書くこと	○「場面に応じて英語を書く」設問の正答率は54.4%であり，市平均を4.7ポイント上回っている。対話の流れに合った表現を書くことに良好な状況がみられる。 ●「単語の並べかえによる英作文」の正答率は50.0%であり，市の平均を7.3ポイント下回っている。語順の理解に課題が見られる。	・書くことに慣れるため，テーマに沿った英文を書く指導を設ける， ・基本文の口頭練習を増やし，語順を理解させる。

宇都宮市立上河内中学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫	「主体的・対話的で深い学び」を通して，表現力を高めるために，各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	・「表現」に関わる問題の校内正答率において、国語の「書く力」は市の平均よりも4.6ポイント、英語の「書く力」は2.9ポイント下回った。また、「思考・表現」でも、国語は5.8ポイント、社会は2.7ポイント、数学は3.5ポイント、英語は4.6ポイント下回った。
	主体的に考える力を高めるために読書活動の充実を図る。	・「ふだん、1日にどれくらい本を読んでいますか（平日）」の質問にほとんど読まないと回答した生徒の割合は42.3%で、市の割合の25.4%と比べて16.9ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語の「書くこと」において，3年生では市の平均を4.6ポイント下回った。一方で，2年生の県の調査において，市の平均を4.6ポイント上回った。作文指導や「短文を書く」指導は，地域学校園での重点目標になっていることもあり，特に力を入れて指導している単元である。本校では「表現力を高め，自分の考えを伝え合う授業づくり」を研究テーマとし，引き続きこれらを指導していくとともに，各教科でも「振り返り」の場面において，考えの変容やこれまでの学習との関連等を自分の言葉でノートに書かせる活動を充実させていき,伝えるの育成を図りたい。
・「テストで間違えた問題は，もう一度やり直している。」の設問では，3年生は市の平均を3.4ポイント下回っていたが，1,2年生は市の平均を7.5ポイント上回った。学級担任や各教科担任が家庭学習の適切な取組内容について繰り返し指導してきた結果と言える。一方で，平日の学習時間が30分以下の生徒が，1年生で15.3%，2年生で18.3%と，それぞれ学年全体の約2割程度おり，課題を残したと言える。次年度は家庭学習の内容の充実を図るとともに，学習時間の確保についても指導していきたい。